

2023 年度 総合型選抜試験(B 日程) 法学部 法律学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
18	14

2. 法律学科 アドミッション・ポリシー

法律学科では、法的思考能力（リーガル・マインド）を備え、現実の社会におけるさまざまな問題に対して、論理的かつ合理的に考え、柔軟かつ適切な解決策を導き出すことのできる人材の育成を目指しています。

そのため、高い志と正義感、忍耐力を備え、以下のような適性を持った意欲ある志願者を求めています。

- ① 社会の動きについて、幅広い関心と知識を持っている人
- ② 物事を柔軟かつ論理的に考え、自分の意見を的確に表現できる人
- ③ 多様な意見に耳を傾け、適切な解決策を導き出す努力ができる人

総合型選抜入学試験では、志願者の自己推薦ポイント（人間性、活動実績、将来への夢・希望など）が、これから法律学科で学んでいく上でどのような意義をもつかを、みなさん自身の言葉で明確に表現できることが望まれます。

3. 出題の意図

本問のテーマは、いわゆる夫婦別姓制度（選択的夫婦別氏制度）についてである。

民法 750 条は、「夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫又は妻の氏を称する」と定めており、現在のわが国では、夫婦別姓制度は認められていない。これについて、近年、夫婦別姓制度を認めない民法 750 条は、個人の尊重、両性の平等を定めた憲法 13 条、14 条 1 項、および 24 条に違反するものではないのかとして裁判が提起され、最高裁で争われたが、いずれも憲法に違反するものではないとする判断が下された（最高裁大法廷平成 27 年 12 月 16 日判決・民集 69 巻 8 号 2586 頁、最高裁大法廷令和 3 年 6 月 23 日決定・判タ 1488 号 94 頁）。

本問は、このような夫婦別姓制度をめぐる議論について、日頃のニュース等を通じて把握しているかを問うとともに、それを踏まえたうえで、自分の意見を述べることができるかを問うこと

を意図している。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

夫婦別姓制度に賛成する意見としては、①氏を変更することによって生じる現実の不利益があること（それまで仕事などで積み重ねてきたキャリアが、氏を変更することによって失われてしまう）、②氏を含む氏名が、個人のアイデンティティに関わるものであること（氏を変更されることによって、それまでの人生を否定されたような精神的重圧がある）、③夫婦同氏を強制することが、婚姻の障害となっている可能性があること（婚姻によって氏を変更するのは、ほとんどの場合は女性であり、女性の負担が大きい制度になっている）、などがある。

また、夫婦別姓制度に反対する意見としては、①夫婦同氏が日本社会に定着した制度であること（夫婦別姓制度は、まだ国民感情に受け入れられていない）、②氏は個人の自由の問題ではなく、公的制度の問題であること（氏には社会の構成要素である家族の呼称としての意義があり、個人の自由で好きにしているものではない）、③家族が同氏となることで夫婦・家族の一体感が生まれ、子の利益にも資すること（家族の中で氏が違うということになると、家族の一体感が損なわれる）、などがある。

（民集 69 卷 8 号 2588 頁以下、判タ 1488 号 98 頁以下、法務省ウェブサイト <https://www.moj.go.jp/MINJI/minji36.html> 参照。）

以上のような、賛成意見・反対意見について説明したうえで、自分の意見を述べてもらいたい。

2023 年度 総合型選抜試験(B 日程) 法学部 地域行政学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
17	7

2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

地域行政学科は、法律・政治・行政分野の学びを通して、より深い見識と広い視野を身につけ、将来的に地域社会のリーダーとしてその発展に貢献できるような人材になりたいという強い意欲を持つ志願者を求めます。そして、このような志願者を受け入れるために、特に次の点を重視します。

1. 地域社会の出来事や国内外の情勢に強い関心を持ち、地方自治体および民間企業のなかで地域社会の発展のために貢献していこうとする強い意欲や希望、自らの将来計画、更には行動力を有していること。
2. 地域社会の抱える課題を発見し、これまで学んできた知識をもとにその解決策を論理的に考えることができること。
3. 課題解決に取り組む際に、まずは自分自身の考えを持ち、そして他者との意見交換を通して議論を発展させ、一定の成果を挙げることができること。
4. 様々な価値観を持つ他者に対して自ら働きかけ、他者と協働して目標を達成した経験を有していること。
5. 国語や社会の科目について、現代社会の課題を発見し解決する能力を向上させるうえで前提となる知識や読解力・文章力といった、高等学校で身につけるべき基礎的学力を有していること。

3. 出題の意図

今回の小論文試験は、アドミッション・ポリシー2 に基づき出題した。自身が住む市町村について、市町村外もしくは県外の人が、その魅力に「気づいていない」ことは、地域社会の抱える課題の 1 つである。さらに、その課題を発見するだけでなく解決策として、「広く知ってもらう」そして「活かしていく」ための考え方について、論理的に記載することを求めた。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

地域の魅力を理解するためには、日頃から新聞のほか、基礎自治体が作成する広報誌等をよく読むことが必要である。さらにその上で、その魅力が、例えば観光名所であれば実際に自身が足を運ぶこと、名産品であれば手に取ること、文化であれば実際に触れることなど、「自分事」として行動することが求められる。

なお、評価にあたっては、設問で求めた事項に対し、漏れなく適切に答えていること、さらに、論理展開に無理がなく、正確な記述ができていることを見ている。

2023 年度 総合型選抜試験(B 日程) 経済学部 経済学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
13	8

2. 経済学科 アドミッション・ポリシー

経済学科は、地域の自立および国際社会の発展に寄与するという教育研究目標のもと、社会人として諸問題を解決していくために求められる基本的な資質である「知識」、「考察力」、「表現力」を有する人物の育成を目指し、以下のような人物を求めます。

1. 経済を含む地域および国際社会の諸問題に強い関心がある人物
2. それら諸問題の解決策を導き出すための幅広い知識獲得に意欲がある人物
3. それら諸問題について論理的かつ主体的に考察をし、行動する意欲がある人物
4. 経済学や関連する諸分野の専門知識を応用し、社会において活躍することを望む人物
5. 経済学や関連する社会科学分野を学ぶために必要である高等学校卒業程度の基礎学力を有する人物

3. 出題の意図

経済学科では、経済を含む地域（特に沖縄県）および国際社会の諸問題に強い関心を持ち、これら諸問題の解決策を論理的に考察し、問題解決のために主体的に行動できる人物を求めている。2021 年末以降、新聞やテレビで原油価格の高騰が日本経済や沖縄経済に与えている影響について盛んに報道されてきた。今回の出題は、普段からこうしたことに対して強い関心を払い自分事として捉えているのかどうか、また現状や問題点を客観的かつ正確に把握した上で自分なりの意見を提示できているかどうかを問う内容となっている。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

採点では、沖縄経済に対する現状認識の正確さ（自分の体験や身近な出来事だけではなく客観的な事実やデータに基づいて述べられているかどうか）や論理性の高さ（論点を整理した上で自らの意見を提示できているかどうか）を評価した。当然のことながら、問題の意図をしっかりと捉えているか、文章全体の構成が整っているか、文章において何がもっとも言いたいことなのかが明確に提示されているか、日本語の文章として表現・表記が適切であるかといったことも重要な評価ポイントである。

2023 年度 総合型選抜試験(B 日程) 経済学部 地域環境政策学科

「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
16	11

2. 地域環境政策学科 アドミッション・ポリシー

地域環境政策学科では、経済の視点から地域と環境を考えることを通して、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献し、持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指しています。

そこで、本学科では、次の 1～4 について自らの言葉で説明できる志願者を求めています。

1. 沖縄及び世界の経済や環境の問題、政策に広く関心がある人
2. 沖縄の過去・現在・未来に関心があり、地域社会へ貢献したいという熱意のある人
3. 社会で起きている様々な事柄に関心を持ち、フィールド(現場)に出て、積極的に活動することが好きな人
4. 大学の授業に耐えうる基礎学力を有し、勉学に対する意欲がある人

3. 出題の意図

本小論文の出題の目的(ねらい)は以下のとおりです。

2022 年 3 月、ロシアによるウクライナ侵攻が始まり、今なお続いている状況です。世界が平和であることが、環境への負荷の低減、環境問題の解決に重要であることを理解し、戦争と環境破壊について、過去や現在の例を挙げながら自分の文章で記述できるかを測ります。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

小論文の中に、上記アドミッション・ポリシー 1 (例えば、ロシアのウクライナ侵攻とCO2 排出量の増加、第2次世界大戦と核使用)、ポリシー 2 (例えば、沖縄米軍基地と周辺の環境汚染) に関する、世界のことと沖縄のことが例をあげて記述されていることが評価されます。

文章は、主語と述語が対応していること、一文一義で長すぎないこと、3～4 つの段落構成で小論文を書いていることが重要です。こちらができていたら、ポリシー 4 も満たすことになります。ポリシー 3 については、学科面接で判断します。

2023 年度 総合型選抜試験(B 日程) 産業情報学部 企業システム学科

「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
15	6

2. 企業システム学科 アドミッション・ポリシー

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指し、「マーケティング」「経営」「会計」の 3 分野を柱に専門的、体系的に学んでいきます。よって、本学科では以下のような志願者を求めます。

1. ビジネスの専門的・体系的な学びを通じて自分自身のスキルや能力を鍛えるために必要となる、基礎的学力と教養を身につけている人物。
2. 企業システム学科で学びたい事を自覚し、それを具体的に表現できる人物。
3. ビジネスの課題を発見しそれを解決へ導くために、思考力と判断力を発揮して、自分の意見を的確に説明できる人物。
4. ビジネスへの深い探究心と広い好奇心、そして大学卒業後のビジョンを抱き、地域・国際社会に貢献する意欲を有する人物。
5. 自分自身が主体的に取り組んできたことや、周りの人たちと協力して取り組んできたことが、大学で学びたいことと結びついている人物。

さらに、多様な資質を有する学生を総合型選抜によって受け入れ、その資質を開花させるために必要な教育を通して将来のビジネス社会で活躍できる人材育成を行います。総合型選抜では、上記の 5 項目に加えて、他者に誇れる活動や実績等を背景とした、卓越した知識や考え方、意見を持っている人物を求めます。

3. 出題の意図

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指している。この小論文の出題の意図は、そうした人材の育成を目指す本学科での学修にあたり、必要な能力を、受験生がどの程度持っているかみることにある。今回は、今後成長が期待されるビジネスと、そこで満たされる顧客の欲求、そしてビジネスを成長させるための課題について問うた。この問いを通じて、現代におけるビジネスの変容を、公民科で学んだ

内容も踏まえてどれだけ理解しているのか、そして課題解決に向けて、どこまで深く思考できるのかをみようとした。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

この小論文では、まず、基礎的な教養がどの程度あるかをみている。ここでいう教養とは、国語の学力に加え、社会一般に対する普段からの関心の広さと深さを表す。次に、論点を整理して、論理的に表現できているかをみている。最後に、社会の問題を他人事としてではなく自分のこととして主体的にとらえ、解決しようとする意欲が伺えるかをみている。

2023 年度 総合型選抜試験(B 日程) 産業情報学部 産業情報学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
18	6

2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

産業情報学科は、産業経済および情報科学・技術の基礎および専門領域における実学的な知識を習得し、高度情報化社会を牽引する国際的なスペシャリストの育成を目指します。また、「情報」「経済」「語学」の3分野を専門的、体系的に学び、さらに地域ないしグローバルビジネス分野で活躍できる人材を育てていきます。具体的には次の能力・人材を養成・輩出していきます。

1. ビジネス・産業・経済の課題を分析し、地域や国際社会に対して解決に向けた提言ができる能力・人材
2. 総合的な情報技術を習得し、高度なプログラミングおよびシステム設計を学んだ上で、デジタルコンテンツのデザインやマネジメントを推進できる能力・人材
3. 異文化を理解し、グローバルなビジネス現場で必要な対話力・実務力・課題解決力を有する人材
4. 「情報」「経済」「語学」の知識を応用し、自らの社会的責任を自覚し地域で積極的に貢献できる能力・人材

上記の人材・能力を養成・輩出するために下記のような志願者を求めています。

1. 「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、それらを深く学びたいと思う態度や、それらを学ぶ上で基礎的な知識・学力を身につけている人物
2. 産業情報の知識を科学的・論理的に学び国際社会や地域の課題を解決する能力や日本語・外国語についての基礎的な知識やコミュニケーション能力を身につけている、あるいはそれらをさらに学ぶ意欲のある人、研鑽しようと努力する人物
3. 大学生活で自ら進んで深く学ぼうと努め、学生・教員の間で互いの価値観を認めつつ協働して勉学に励みコミュニケーション能力を身につけた人物

さらに、総合型選抜では、上記の3項目に加えて、以下の項目を掲げ学力だけでは測れない多様な資質を有する志願者を求めています。

1. 情報技術、またはスポーツ文化活動、語学、ボランティア活動などにおいて他者に誇れる実績などを有している人物
2. 産業情報学科で学びたいことを明確にアピールできる人物
3. 大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物

3. 出題の意図

小論文試験は、以下の出題意図に基づいている。

- ① 情報技術およびビジネス全般、地域社会について関心を持ち、基本的な知識を有しているか。
- ② 出題された設問に対して、論理を組み立てる思考力、自分の意見の論拠を示して明瞭に表現できるか。
- ③ 大学入学後に学ぶ知識を、自らの将来設計や社会的課題解決に活かそうとする意欲を有しているか。

今回の出題では、地域のビジネスが国際情勢の変化によってどのような影響を受けているかについて、理解の度合いを確認している。また、こうした問題の解決に向けて、情報技術とビジネスに関する知識を論理的に結びつける思考力と、その論述の説得力についても確認している。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

産業情報学科では、「情報」「経済・ビジネス」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、かつ学ぶ意欲のある人物を求めています。今回の小論文試験では、出題の意図①～③に加えて、論理展開に無理はないか、語句の用法に誤りはないか、指定された文字数でまとめているかを評価しました。

新聞などから最新の情報を得る習慣を身につけ、国際社会、日常生活、情報技術等の課題に加えて、新たな取り組みと活用について関心を持つようにして下さい。また、自分はどう考え、どう行動するか、どのようにすれば効果的に実現できるか、できることは他にもあるのでは、他にも活用できるのでは、といった視点を持つことも大切です。さらに、小論文試験対策としては、時間的な制約と文字数の指定を踏まえ、指定時間内で書く練習をすることもお勧めします。

2023 年度 総合型選抜試験(B 日程) 総合文化学部 日本文化学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
7	5

2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科は、以上の学科の教育目標と沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーに照らし、次のような志願者を求めます。

1. 言語・文学を中心とする日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーションについて主体的に学ぼうとする意欲・関心をもつ人
2. 1の学びを深めるための基礎学力をもつ人
3. 地域社会、国際社会、多文化社会、高度情報社会の中で生じるさまざまな課題を解決するために必要となる、基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)を身につけている人

総合型選抜では、上記の 3 項目に加えて、以下のような能力・意欲と基本的な学習習慣をもった志願者を求めます。

1. 批評・創作を含む広い意味での表現活動、知的好奇心を深める豊かな読書活動、琉球文化の継承発展に関する活動、国際交流活動などの領域で優れた実績を上げ、大学生活の中で、さらに深めようとする人。
2. 国語科教員、日本語教員、図書館司書(学校司書を含む)、司書教諭などの当学科の専門領域に関わる職業に深い関心を持ち、それを通じて社会貢献を目指す人。
3. ボランティア活動、課外活動(スポーツ、文化活動ほか) などを通して、広い視野(多様性)やコミュニケーション能力を備え、大学での学びに生かそうとする人。

3. 出題の意図

総合型選抜(B 日程)において、日本文化学科ではアドミッション・ポリシーに基づき、思考力・判断力・表現力等を測るための論述式の試験問題を出題しています。

論述のテーマは、「日本文化」「琉球文化」「多文化間コミュニケーション」の3つの専門領域に関わるものです。

今年度は日本文化に関わる問題を出題しました。日本文化学科では、国語科教職課程に所属し、中学校・高等学校の国語科教員を目指す学生がおります。「素読世代」と「教養派」に関する叙述を適切に整理し、「近代の知」と「学校教育の知」について、筆者の考えを的確にとらえることは、入学後の学びに有益であると考えます。

問1は「要約問題」、問2は「自分の考えを論述する問題」となっています。問1では適切に情報を整理しまとめ、伝える力を評価しました。問2では、本文の内容と関わる4つのテーマの中からテーマを1つ選び、そのテーマに関する自分自身の考えを適切に論述した内容を評価しました。

大学で学ぶ上では、このように情報を整理し、まとめる能力はきわめて重要なスキルであり、また、適切な用語を選択しながら思考力・判断力・表現力等をはたらかせて論理的な文章を書くことが求められます。問1と問2で、日本文化学科の専門領域に関わるテーマの中でその力が発揮できるかどうか問われています。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

「要約について」

本文中のキーワード、キーセンテンスを探し出すことにつとめてください。何度も出てくる語句を中心にどのような主張、論証がなされているのかを、しっかり見きわめることによって、論理の展開が見えてくるようになります。要約では、文章の中心的な部分を過不足なく抽出することが求められます。主張を支える説明や例示を多く書きすぎしまい、肝心の箇所の叙述を抜かしてしまう要約はさげなければなりません。つねに、今読んでいる箇所は、主張(意見)なのか、論証(説明)なのかを見きわめる必要があります。

「自分の考えを論述する問題について」

論述とは、「筋道を立てて論じ述べること」です。論を展開するためには、適切な構造が必要になります。自分の主張をささえる、説明が適切かどうかをしっかりと検討して書くことが求められる。そのためには、まず、論の展開について、段落構成や内容の適否を先に検討する必要があります。すぐに書き出すのではなく、しっかり段落構成や内容を検討してから、書き出すことを心がけましょう。

2023 年度 総合型選抜試験(B 日程) 総合文化学部 英米言語文化学科

「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
11	10

2. 英米言語文化学科 アドミSSION・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミSSION・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. 英語圏の言語・文化に強い関心を抱く人
2. 高い英語力の習得に主体的・自律的に取り組む意欲のある人
3. 英語を通じて日本と世界をつなぐグローバルな志を持つ人
4. 共に学ぶことの意味と意義を考え、よりよい学びのために他者と協働できる人
5. 多言語・多文化理解に必要な基礎的学力を持つ人（総合型選抜：英検 2 級、CEFR B1 程度の英語力を持つ人）
6. 他者とのコミュニケーションを通して、望ましい人間関係の構築を図れる人
7. 多文化共生社会において諸問題の解決に求められる基礎的な思考力・判断力・表現力などを有する人

3. 出題の意図

英米言語文化学科は、世界の人々対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切に、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

次の英文は、グリーンエネルギーについて述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2023 年度 総合型選抜試験(B 日程) 総合文化学部 人間福祉学科社会福祉専攻

「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
14	13

2. 人間福祉学科社会福祉専攻 アドミッション・ポリシー

社会福祉専攻では、以下のような志願者を求めています。

- I. 将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物。
- II. 社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物。
- III. 将来、アジアや太平洋地域をはじめとする国際的な場における支援活動に参加することを熱望する人物。

また、上記のいずれかに該当する学生を募集する上で、各種入学試験では次のような点を具体的な評価の指標とします。

1. 社会福祉の専門的な役割等について、的確に説明することができる人物か
2. 大学で学びたいことと自分自身の将来像とのつながりについて、的確に説明できる人物か
3. 国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か
4. 社会参加および社会貢献に対して、意欲や積極的な姿勢をもつ人物か
5. 社会福祉を科学的に学ぶ(他者の声を聞き取り、要点を整理し、記述する)ための基礎的学力を有する人物か

3. 出題の意図

本問は、上記アドミッション・ポリシーの評価指標のうち、主として「1. 社会福祉の専門的な役割等について、的確に説明することができる人物か」、「3. 国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か」、「5. 社会福祉を科学的に学ぶための基礎的学力を有する人物か」を問うことを意図しています。

本問のテーマは、2021 年 4 月の少年法改正によって創設された「特定少年」への実名報道についてです。これは民法の成年年齢の引き下げにともなう、少年法改正による「特定少年」への「厳罰化」であり、社会的関心も非常に高いといえます。

本問は、「特定少年」への実名報道について、日頃のニュースを通じて把握しているかを問うとともに、少年法の理念である「健全育成」を踏まえ、自分の意見を述べることができるかどうかを問うことを意図しています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

（1）評価のポイント

今回の出題にあたっては以下の4点が評価のポイントとなっています。

- ① 「特定少年」について、どれくらいの知識や関心を持っているか。
- ② 非行の背景にある貧困や家族、地域の問題について、どれくらいの知識や関心を持っているか、そしてその問題を社会福祉の視点からみることができるか。
- ③ 実名報道の意義と効果について考えることできるか。
- ④ 自分の知っていること、自分の経験したこと、自分の考え、自分ができることを関連付けて、自分の意見として論述する能力があるか。

（2）アドバイス

本少年法改正は、選挙権年齢や民法の成年年齢が 18 歳に引き下げられたことを踏まえた改正です。その趣旨は、「選挙権年齢や民法の成年年齢の引下げにより重要な権利・自由を認められ、責任ある主体として社会に参加することが期待される立場」になることにより、少年法においても、「その立場に応じた取扱い」をするというものです。

沖縄県は、全国的にみて（全刑法犯に含まれる）非行少年の比率が高いと言われています。受験生のみなさんと同年齢の「特定少年」の問題を、身近な問題として、さらに家族、社会の問題として考察してみてください。

2023 年度 総合型選抜試験(B 日程) 総合文化学部 人間福祉学科心理カウンセリング専攻
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
18	14

2. 人間福祉学科心理カウンセリング専攻 アドミッション・ポリシー

人間福祉学科心理カウンセリング専攻は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通り具現化し、人間のこころに関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人物を求めます。

- 1.人間の「こころと行動」と「人と人とのつながり」について科学的視点から学ぶ意欲と関心を持つ人物。
- 2.これまでに意欲的に取り組んできた活動や得意分野を大学での学びに結びつけ、さらに、心理学の知識や技術を今後のキャリア形成や日常生活に実践的に応用したいという真摯な態度を持つ人物。

3. 出題の意図

アドミッション・ポリシーの1つ目に該当するかを判断するための問題となっています。心の働きと体の働きは切っても切れないほど密接な関連にあり、「こころと行動」について科学的視点から学ぶには、心と体の関係を理解しておくことが必要不可欠な要素となります。現時点での心理学の知識や、自分自身の日常生活での経験に基づき、客観的な視点から心と体の関係について考察し、論じることができるかを評価するために出題しました。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

心がどのような働きをしており、自分の体や行動にどのような影響を与えるかについて、日頃から関心を持ち、気づくようにしましょう。心と体が関連している事例が、具体的に挙げられているかどうか、評価のポイントの1つ目となります。

また、具体例に基づき、心身の健康を保つために重要なことを考察しましょう。この際、心と体の健康についてただ別々に論じるのではなく、心と体の健康の双方向の因果関係に触れながら論じられているかが、評価のポイントの2つ目となります。